



伊丹市立幼児教育センター通信

ときめき ひらめき

Vol. 16 (令和5年11月)
発行: 伊丹市立幼児教育センター
住所: 伊丹市千僧 1-1
電話: 072-780-2488
アドレス: youkyosenta@city.itami.lg.jp

★申し込み受付中!!★

伊丹市幼児教育シンポジウム 2023

と き: 令和5年12月3日(日) 13:00~16:00 ところ: 東りいたみホール 大ホール

実践発表 「子どもを真ん中にして、語り合い、学び合う」

○社会福祉法人イーキッズ
千僧森のほいくえん

○伊丹市立わかばこども園



実践発表をしてくださるのは、この2園だよ!
「子ども主体の保育」を職員間で語り合い、試行錯誤し、創造されてきた実践から、みんなで学ぼう!!

講評 大阪総合保育大学 教授 瀧川 光治 氏

講演 「子どもの主体性を育む教育・保育を目指して」
～子どもを真ん中にして、語り合い、学び合う～

講師 お茶の水女子大学 アカデミック・プロダクション寄付講座 教授 宮里 暁美氏

ここから申し込み
できるよ!
締め切りは20日
だよ!



不明点やお問い合わせは、
お気軽にセンターまで!!

子どもを真ん中にして、学び合う

素敵なエピソード紹介

先日、ある保育所の園内研修会に、隣接している小学校の「児童くらぶ」の先生が2名、熱心に参観されていました。お声かけしたところ、保育所の子ども達が夢中になって主体的に遊ぶ姿に、大いに刺激を受けています、とのことでした。

そして、児童くらぶにおいても、幼児期に育まれた力を引き継いでいくために環境の改善に取り組みたいと、早速「くらぶマップ」を作成され、後日、保育所からの助言を参考に(写真参照)、「くらぶ」の部屋の環境を変えられたそうです。

子どもの発達と学びは連続しています。校種の垣根を越えて職員同士がつながり、子どもの姿を中心に、学び合う取り組みに感銘を受けました。そして、真摯に、「今まではこうだった」ではなく、「今から私たちにできること」を考え、

すぐに行動に移されている児童くらぶの先生方の姿勢には、私達も学ぶべきことが多くあると思いました。



保育所(左2名)・児童くらぶ(右3名)の職員で、より児童が主体的に過ごせる「くらぶ」の部屋の環境をともに考えました

★関西学院大学 教育学部の授業に協力しました★

いよいよ4月から「先生」と呼ばれることになる学生さんにとって、仕事に就くのは不安がいっぱい。少しでも現場の様子を知ってもらい、不安感が取り除ければ・・・という思いで「保育・教育実習」の最終授業に、幼児教育センターの職員が zoom で参加しました。

授業のテーマは、「保護者との関わり(保護者対応)について」で、学生からの質問にアドバイザーが答えるという内容でした。

「保護者との信頼関係を築くために大切にしていることは」「保護者の質問にどの程度まで答えればよいのか」「配慮が必要な家庭への関わりはどのようにすればいいのか」など多くの質問が寄せられ、学生が仕事に就く前からいろいろと考えているのだということが伝わりました。

アドバイザーからは、保護者とのよい関係を作るには、まずは子どもに「先生が好き」と言ってもらえるような関係を作ること、問題は一人で抱え込まないで周りの先生に相談すること、等話しましたが、新人の先生の不安が具体的にわかり、私達もとても勉強になりました。現在センターでは「新任ガイド」を作成中ですが、その中に今回の学びを組み入れていきたいと思いました。



自身の経験を交え、学生に親身にアドバイスしました



★アドバイザー通信

(訪問先の保育園の掲示物より)

自園の目指す保育方針は・・・

「子ども中心の保育」とかけて 盆栽ととく
その心は・・・

「待つ(松)」と「聴く(菊)」

この短い言葉に保育の原点があるなと納得でした。

★おススメ保育専門書(貸し出しできます!!)

「触れて感じて人とかかわる 思いをつなぐ 保育の環境構成」

宮里 暁美 編著 文京区立お茶の水女子大学こども園 著 中央法規

「幼児教育シンポジウム2023」でご講演いただく 宮里暁美先生の保育の環境構成についての著書です。

環境に子ども当てはめず、子どもの動きや思いを形にするために環境を整えていく、そうした環境整備に対する発想の転換・実践をするためのヒントを、豊富な事例をもとに提案しています。

※(0・1歳児クラス編) (2・3歳児クラス編) (4・5歳児クラス編)揃っています。

